

とする。どちらの造語も前むきの姿勢をこめている点では似てゐる。高緯度保育の語には、さらに風土とか内容面への配慮を打ちだそうという地域性を感じるがどうであろう。手まえみそになるかも知れない。

五

最後に幼児教育の水準にふれてみよう。現象面だけだと本道のようなどころでは、ピンからキリまで、その間がひらきすぎ、どこに線をはひくか難かしい。現場の自主的な研修や研究の内容をみることも一つの目のつけどころになろう。

例えば、二、三年前に北海道私学教育協会が発足した。その会のきもいりで、幼稚園の先生がたは二つの共同研究と三つの指定研究をまとめた。いずれも、水準というよりは現場の底力の一面を示したものといえる。

北海道教育学会は昨年から共同の課題として、「本道の就学前教育の諸問題」をとりあげた。これまで弱かった幼児の家庭教育も含め本格的に取り組んでいる。無論、学者、研究者の他に現場の保育者が参加している。水準の向上に働きかけるものと期待は大きい。

現職の研修としては数年前から毎年、私立幼稚園連合会が自主的に本道としてはかなり大がかりな研修会をもっている。

昨年からは、教育委員会が主催して、幼稚園関係者の全道幼稚園研究集会がもたれるようになった。

グラフでも明瞭なように、いまや北海道の幼児教育は雪どけに入ったといつてよい。全体はきめのこまかいすすみかたとはいえない。ましてきれいなことはほど遠い。いつてみれば、フロンテアにはフロンテアにふさわしく、そこにはたくましい希望にささえられている。それは大地を堀りおこす開墾に似て、幼児教育の土壌から、子どもたちの上にみずみずしく及んでほしい明るい願いが込められているといいたい。

(北海道教育研究所)

保育所と北海道

大上 真宏

○保育所の濫觴

北海道が松前と呼ばれていた頃、この土地は金儲け以外のなにものでもない土地と人々は思っていたのです。その頃の北海道は住むに寒く、語るに友はなく、訪れる者は土着のアイヌ人たちばかりで遅れていたとはいえ、内地で多少の教養と文化生活を味わった者に

は、到底辛抱のできる暮しではなかったのでしょう。

明けても暮れても、ただただ金儲け以外に目的をもたなかった、この人々にもし他を求めるとするならば、それは慾望以外なものもないという時代である。当然その人々によって築く聚楽はこれまた物と肉体の慾情を満す場であって、一攫千金の夢を追う。ここ松前の生態といつてよい。

時代。この聚楽の中に育てられるところの多くの子どもは正常な家庭に育かれた児童ばかりではありません。

誰にも顧みられない、いたいけな幼児の社会があったのです。

路傍に棄てられ、港場に置き去りにされる、毎年のように、秋雨がみぞれ雪となる頃ともなればその数が増えてゆきます。

父親なる男は目的の金を懐中にして内地に帰ってゆく。

一方成功の夢破れた者も数しれず、知己、縁者を頼って越年をして春を待つのである。こうした暮しの中に越年婿という非情な存在があつて母子を悲しませたものです。

金儲けの爲には他を棄てて顧みない風潮な出稼者の成功(物質的)への根性であるのかもしれない。

したがつてその当時は社会福祉施策としてなく、母子にとつては常識を超えた悲劇の松前でもあつたわけです。

○育児会社の創設

その頃(明治元年〜二年)横山淳道というお医者さんが、江戸

(東京)から本道に渡り函館に住み、この惨めな母子たちに心を動かし医業の傍ら人々を説き同志と計り、この棄てゆく子どもを拾ひ集めて養育し、既に死亡した嬰兒は墓所に葬り、薄倅な子らの冥福を祈つたとあります。

この墓は現在函館市住吉町共同墓地(啄木の墓の前筋手前)に育児碑と刻んだ小さな墓石が、それであります。

育児の方は明治・大正・昭和と奇特な奉仕者と団体によって継続され、現厚生院育児施設ぐるみ学院となり、保育に欠ける子らの施設、託児所は慈善院から函館共愛会に引継がれて今日に及んでおります。

こうした、創設者横山淳道氏の慈悲の精神と博愛の施設、育児会社の本道における保育所の濫觴あり、函館市は本道の保育所発祥の地と自負しても憚らないと思つ次第です。

○現在の保育所の実態

因みに本道における保育所の道程日本通開拓途上必要であるという要素が強いにもかかわらず、児童福祉精神に基いたところの設立意金は薄く、戦前において漸く四十数カ所に過ぎず、この常設保育園(私立)が約一世紀という永い歴史の中に頑張つて経営されてきたことは、児童福祉にとつて貴重な存在であつたと思ひます。それだけに難事であつたことも想像できるのです。

省みて今も昔もそうした背景の中で設置される保育所の運営には変りなく、横山淳道氏の育児会社もこの道を開くに苦しく、手段と

して町民の理解と協力を強く結びつける為に、児童の救いと哀れを強調して創立運営に当る以外なかつたでしょうが、児童福祉の精神と、保育の内容の量点において今日と変わるところがなく、むしろ、より高いものがあつたことが当時の文献伝承などによつて、うかがい知ることができるのであります。

この流れを汲む、保育所が今や本道には二百三十五か所、内私立八十か所、児童数一万七千四百十八名。

この外、僻地、季節と合せて今年は二百か所を越える要望ぶりであります。

全く好しい傾向となつてまいりました。

しかしながら、この広い北海道とはいえ、保育所の無い村がまだたくさんあり、二十五市の内、一保育所より設置してない市が六市もありまして、四国の香川県より広いという別海村にはまだ保育所はありません。

この事は道開発計画にも取り上げられまして、第二次計画が完了する昭和四十五年には、未設置町村を解消して、現在の二倍にする計画と聴いて期待しております。

○千手観音菩薩になりたい

現在児童福祉を支えているものといえば、難しい運営事項は別として、保母であろうと思うのです。保育内容のうちの「日母に代

つて」云々は効いております。

これが指針となつて行なわれている現制度では、あらゆるもの皺寄せが、園長や保母にきておりますことは、何れの地方も同様でしょうが、特に北海道は広いだけにその感を深く致します。積雪・寒冷・更には地域の広さという通園の上下に自信のもてない幼児であるだけに心を痛めます。

保護者の職業はこれまた多種多様、園児の年令はいろいろで、生活環境の違い、性格・知能の差は保育を一層難しいものにしております。乳児から学令期までの差は組別で区分ができて入所期間と年令が一定しておらないことも保育上の問題です。

服装にしても貧富の差によるばかりでなく、北海道特有のフックク厚着の習慣は保母の手数を増しております。服装を統一しようとしても幼稚園のように簡単に実行できないところに、保育所を必要とする社会があることを悟らねばなりません。

朝の早出は夏季六時三十分、冬季七時で受持児童数は現行、保母一人に三十人で一応交代制は定めておつても事実上不可能です。三才未満児は、九人で一人の保母がおむつの取替えから授乳にと、考えただけでも授乳用便と応えてやることはできません。

千手観音菩薩になりたい、と呟く保母のことばも理解していただけたらと思います。

その上、保育所には保育内容に欠かせない給食があります。給食時間となつてほしいへんな忙しきで自分たちの食事は呑み込む

程度で噛むひまがないのが普通で昼休などはもつての外という状態です。

○保母の悩み

去る保育大会で、「保母にも恋愛する時間を下さい!!」というちよつとユーモラスに響く提案があったのですが、真に偽らない叫びと私共は受け取ったのです。

また健康についてみると、保母の病気の大半は、腎臓系と胃腸病であることです。

素人判断ですがこの原因は用便を我慢したり食事が不規則であったりするところにあるのではないかと思うのです。

更に一層深刻なことは、自分たちが身を粉にしても児童がそれだけ幸せになれば慰められるのですが、自分たちの努力では如何にもならない面が非常に多く、常に悩まねばなりません。

例えば

。みんなかわいい良い子なのに、親の生活、その児の住む環境が響いてきて、自分たちの願いも努力もここまで届かない。

。頭脳がすばらしい子なのに、それを育成してやれる家庭でない場合。

。すぐしてやりたい差し迫った事なのに、これ以上は手が廻らない。

。午後四時、五時ともなればお迎えのお母さんが友だちの手を引

いて帰ってゆくのに、午後七時頃まで園にいななければならない子。迎えに来ないので送ってゆくと、夫婦で夕食を摂っている。

「お願い赤ちゃん」、のつもりだろうか？……

これが児童福祉に定められた保育所の在り方だとしたら、あの完たる児童憲章は、と嘆きたくなる。

この切実な願いと、保育者の夢はどうなるだろう。

夢は夢として消えてゆくのだろうか？

児童の社会保障が完全に確立するまで、保育者の努力によって補ってくれと言うのなら致し方もないが、国も社会も、この実情を知って確立を急いでほしい。

特に病気の子はかわいそうだ。この親たちが治療をしぶるのは半額払わなければならないからだ。他の健康な子たちの為にも、早く治療をすすめても、熱の高い、青い顔をした子を連れてくる。

一日も早く児童の治療費は全額、国が負担するようにしてほしい。そうなれば保育所も明るくなる。これが現下の念願です。

近頃、国は、幼稚園と保育所の保育指針をお示しになった。この事は意義のあることでありましょうが、私共はこの実態の改善を急ぐと共に「児童は等しく育てられる」、という大方針を確立して真の子ども天国となることを切望しつつ、春を迎えた北海道のすばらしく広大な気宇の中で、のびのびとしたよい子を育てようと、張りきっております。

(北海道保育所連合会長・函館共愛会保育園園長)